

CLA journal



- 特集／2009年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）
- 特集／緑のムーブメント ～みどりの環境都市・東京・パネル展～

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

目 次

特集：2009年ランドスケープコンサルタンツ協会賞(CLA 賞)

■優秀賞	
【一般部 設計部門】	
ランドスケープ設計監理業務 喜瀬別邸 HOTEL & SPA	2
【一般部 設計部門】	
練馬区立石庭の森緑地	4
【一般部 設計部門】	
若葉台公園	6
【一般部 調査・計画部門】	
第25回全国都市緑化ぐんまフェア高崎まちなか会場修景・演出計画	8
■奨励賞	
【一般部 設計部門】	
熊谷グリーンフォレストビレッジ	10
【テーマ部 表現・活動部門】	
地域連携による資源有効活用方針検討 ～エコあすか～	12
■特別賞	
【一般部 設計部門】	
佐渡 トキ野生復帰ステーション設計業務	14
■受賞技術者プロフィール	16
■CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし	18

特集：緑のムーブメント

■再度東京オリンピックを実現し、環境都市創造をスタートさせよう	19
■「みどりの環境都市・東京・パネル展」開催について	20
■みどりの環境都市・東京・パネル展 展示パネル	21
2016年東京オリンピックと環境遺産／IOC・JOCの環境方針／オリンピックの招致とみどりの環境づくり／オリンピック招致シンポジウム2006・2007／オリンピック招致シンポジウム2008／東京オリンピック・パラリンピック招致支援エンブレム花壇／日本だから、できる。あたらしいオリンピック！／オリンピックで残してきた環境遺産／昭和の環境遺産としての駒沢オリンピック公園／東京オリンピックの意義と代々木公園／札幌冬季オリンピックアーカイブス／長野冬季オリンピックアーカイブス／「環境・文化の先進モデル都市東京」をアピールする「緑と文化の回廊構想」／2016年東京オリンピック・パラリンピックで環境資産として何をつくりだすか／風の道（五輪軸）構想1／風の道（五輪軸）構想2／「世界一緑の少ない都市」と言われないための“下町景観の再生”1／「世界一緑の少ない都市」と言われないための“下町景観の再生”2／「10年後の東京」水と緑の回廊に包まれた、美しいまち東京を復活させる／都民による緑豊かなまちづくり	

会員名簿／36
お知らせ／40
編集後記／40

表紙の Photo Story

2009年CLA賞優秀賞を受賞した4作品。リゾート、文化遺産的空間、里山、既存市街地と多岐にわたるフィールドにおいてランドスケープコンサルタントがいかんなく力を発揮した作品である。優秀賞以外の受賞作品からもランドスケープコンサルタントに求められるコンサルテーション能力が、より広範に、また高度な専門性を求められるようになってきているように感じられる。詳細は各作品の掲載ページをご参照ください。



ランドスケープ設計監理業務 喜瀬別邸 HOTEL & SPA

株式会社シビックデザイン研究所 出来正典・石川圭一・岩佐英史

□ランドスケープならではの景観演出の達成

沖縄県名護市に2007年開業したリゾートホテル『喜瀬別邸 HOTEL & SPA』は、優れた景観演出に欠くことのできないランドスケープ的観点で完遂されたプロジェクトです。

プロジェクトとして特筆すべき要点は『オーナーと協働したプロジェクトチームの存在』『徹底したコンセプトの追求』『総合的な DB (デザイン&ビルド) 方式の採用』の三点に集約されます。

『オーナーと協働したプロジェクトチームの存在』とは、プロジェクト推進のシステムにあります。プロデューサーが中心になって「建築」「ランドスケープ」

「照明」等のデザイナーを選考招集してチームを結成運営する一方、個々の成果をオーナーや施工者と総合的に調整して現場に反映するシステムが徹底されました。その成果は「一貫性」「相互補完」「相乗効果」となって作品に反映されています。

第二の『徹底したコンセプトの追求』では、“品格ある地域性の具現化”を共通デザインコンセプトに掲げ、抽出された地域性素材や用法等の構成要素を徹底的に精査・ブラッシュアップして磨き上げ、空間や活動景にストーリー性をつけて配しました。

最後の『総合的な DB (デザイン&ビルド) 方式の採用』は、独自のデザイン施工一貫システム「DB (デザ



アプローチ道路のある稜線の崖から湧き出る大きな懸樋（ヒージャー）越しにホテル棟南面を望む

作品概要

作品名：喜瀬別邸 HOTEL & SPA
 ランドスケープ設計・監理業務
 所在地：沖縄県名護市喜瀬1343-1
 発注：金秀商事株式会社
 設計：株式会社シビックデザイン研究所
 設計協力：
 監理：株式会社シビックデザイン研究所
 施工：金秀建設株式会社（金秀グリーン株式会社）
 設計期間：2004年4月～2005年8月
 施工期間：2005年10月～2007年4月
 規模：約330,000m²（敷地面積）
 主要施設：ホテル棟、スパ棟（やうら）、やうら庭園、他水景及び観賞植栽空間一式

作品評

本作品は、他に類のない沖縄らしさを最大限に発揮した高級リゾートホテルを建設するプロジェクトにおける、ランドスケープの基本・実施設計及び、意匠監理である。
 この作品の特色は、ランドスケープに利用する素材やディテール、植栽樹木等に沖縄特有のものを用い、これらを沖縄らしさの表現とホテル利用客をもてなす空間づくりの2つの目的を満たすために、うまく利用している点にある。具体的には、沖縄独特の生活に根ざした形を、ランドスケープの景観演出に違和感なくデザインし活用したこと、沖縄ならではの植物がつくる緑陰や花の色彩、香りを、ホテル利用客のもてなしのための演出に利用した点が秀逸である。
 また、ランドスケープ空間をつくりあげていく際の理想と考えられるプロセスである、設計者が設計から施行まで一貫して関わることが実現されており、このプロセスの中で行われた、スケッチを用いた設計者と施工者間のデザイン意図の共有化や、標準規格にとらわれない樹木の活用は、本来あるべきランドスケープ設計の姿を示したものであり、高く評価できる。
 以上、優秀な作品であると評価する一方、恐らく検討していたであろう名護湾への眺望やゴルフコースとの関係やリゾートホテルとその周辺との関係についての考え方が提出された資料からは読み取れなかった点が悔やまれた。

イン&ビルド)方式」を採用した点が完成度の高い景観プロデュースを達成できた所以と言えます。

これは、企画構想からデザイン提示、素材の選定、構造や工法の設定、変更の指示と調整等の全工程を、固定したデザイン事務所が完遂することで、責任の明確化、指示の簡潔性、コストダウン、雰囲気等の品質管理等が徹底されました。

さらに、デザイン管理をデザインチームが負い、発注者間との意思疎通をきめ細かく行う独自のシステムにより、一般的なDB方式の利点とされる「設計にかかる期間やコスト、材料調達等の無駄の省略」にとどまらず、事業全体のコスト管理や供用開始以降のランニング性向上等を図る本格的なVEが達成されました。





練馬区立石庭の森緑地

株式会社グラック 八色宏昌・白井浩司
アゴラ造園株式会社 田窪孝次・荻野淳司・田中敏弘

□ 対象地の概要

対象地は、平成17年に練馬区が私有地の前庭を買収して整備した都市公園である。敷地には、かつての名主の屋敷の前庭であり、ケヤキの大木やツバキ類、モウソウチク林が見られる武蔵野の面影を残す屋敷森として今まで残されてきた。前庭には、家主が収集した三波石主体の石組みを中心とした池泉回遊式庭園の面影が残っていたが、石組みは土砂の堆積により埋もれ、実生木や草本類に覆われて、形態が不明確であった。また、敷地外から運ばれたと思われる廃棄石材が無造作に積まれた状態であった。

□ 整備の特徴

当整備は、屋敷森を主体とした地域固有の風景の継承、既存資源の利活用により循環型社会形成に配慮したものであり、小規模の都市公園では稀な設計監理をコンサルタントが発注者に提案することで実現化し、施工者と協働のもとに整備を進めた。

□ 設計内容

整備対象は、地域住民が日常的に利用する敷地面積2,505㎡の比較的小規模の都市公園であるが、敷地内に多量に残存していた既存の自然石(合計96個, 69.38t)及び、不定形な廃棄石材などの多量の形態・石質を持



沿道部にあった整備前の大谷石壁を撤去し、屋敷森の緑がまちに開放された

作品概要

作品名：練馬区立石庭の森緑地
 所在地：東京都練馬区東大泉7丁目50番地内
 発注：練馬区環境まちづくり事業本部土木部公園緑地課
 設計：株式会社グラック（担当／白井浩司，八色宏昌）
 監理：株式会社グラック（担当／白井浩司，八色宏昌）
 施工：アゴラ造園株式会社（担当／田窪孝次，荻野淳司，田中敏弘）
 設計期間：2007年8月～2007年10月
 施工期間：2008年1月～2008年3月
 規模：2,505 m²
 主要施設：施設（石積み（大谷石再利用），門柱（移設），フトンカゴ雑石積（廃棄石材）等）

作品評

本作品は「循環型社会への寄与」と地域の歴史的資産である「屋敷森の風景の継承」にあたり、現地で廃棄されていた石材を重要な素材と捉え、その場の空間にきめ細かくデザインした点に特徴がある。

地域住民とのワークショップによる基本計画～実施設計～設計監理の一連の作業において、本作品の完成度を高くするため、ものづくりにおけるランドスケープコンサルタントの役割と必要性を強くうたっているように感じた。

そして、緑地が減少する市街地において、私有地である屋敷林の保全に、ランドスケープコンサルタントが携わった事例としての意義と様々な課題を解決した技術力に、今後のさらなる期待が高まった。

しかしながら、応募資料より、地域との合意形成におけるプロセスや、施工業者とのコラボレーションにおいて設計者の影響力がどのように発揮されたかに関する記述が希薄である印象を受けた。これらの詳細が読み取れる資料であれば、より高い評価が得られたと考えられるだけに残念であった。なお、応募資料における、表現的確性と表現力、説明順序から、優れたプレゼンテーション能力を有していることが評価されていただけに上記の点が惜しまれた。

つ既存石材とコンクリート廃材を敷地内で分別したうえで屋敷森の風格を継承・再構成するために利活用しており、地場の材料を用い、地域の歴史的資産である屋敷森の風景を継承していることが当作品の特徴である。

竣工後について

公園の竣工後に行われたオープニングセレモニーでは、区長をはじめ、地域住民、工事関係者などが集ま

り、お茶会、竹細工教室、植樹会が実施され、地域の公園としての第一歩がスタートした。

また、地域住民を主体とした管理組織の形成や、工事期間中に在来植物の保全を目的に、近隣学校にホームステイ（仮移植）していた在来植物を公園内に里帰り（植生復元）するイベントが開催されており、屋敷森が地域住民の大切な場として歩みは始めている。



園内の大ケヤキ



既存石材を活用した飛石・敷石等



屋敷森を巡る回遊園路



まちに開かれた屋敷森の道



大谷石の端材を試験積みした後に廃材を充填したフトンカゴ雑石積



オープニングセレモニーではお茶会等が開催された。竣工後は、地元住民のきめ細やかな管理が行われている



全体平面図



若葉台公園

株式会社ヘッズ 加藤 修・矢吹克美・福留正雄

若葉台公園は多摩ニュータウン B-6 地区の境界部に位置し、地域の郷土景観が保全されていたニュータウン地区外の既存のまちに隣接していた。計画地の周辺には公園や鉄道駅といった、ニュータウン居住者の生活を快適にする施設が立地しており、本公園がこれらの結節点となっていたことから、ニュータウンと既存のまちの連続性の創出、並びに、ニュータウン内の周辺の公園と鉄道駅の連続性を生み出すことを目的に設計を行った。また本公園が、稲城市全体の高域な緑地構造の一部として位置づけられていたことから、こ

の緑構造を強化するよう設計を行った。

若葉台公園は3つの視点で空間デザインを創造した。

- (1) 様々なつながりを実現する空間デザイン
 - 緑・都市施設をつなぐ
 - ニュータウン地区内外をつなぐ
 - 集合住宅用地をつなぐ
- (2) 地域の歴史的・文化的景観と一体化する空間デザイン
- (3) 防災に資する空間デザイン



最盛期の花の段々畑（シバザクラ）

作品概要

作品名：若葉台公園
 所在地：東京都稲城市若葉台1丁目24番地1
 発注：都市基盤整備公団 多摩ニュータウン事業本部
 設計：株式会社ヘッズ
 設計協力：
 監理：
 施工：
 設計期間：平成10年4月～平成15年3月
 施工期間：
 規模：6.4 ha
 主要施設：管理棟，テニスコート，円形広場，展望広場，花の段々畑，下池

作品評

本作品は、多摩ニュータウンB-6地区の境界に位置し、地域の郷土景観が保全された既存のまちと、ニュータウンの結節点にあたる地区公園の設計である。

稲城市全体の広域な緑地構造の強化、ニュータウン内の既存公園と鉄道駅の連続性の創出、既存のまちとニュータウンの連続性の創出の実現に貢献したランドスケープ手法が高く評価された。

谷戸地形に連なる既存のまちと本公園の連続性を演出する地形造成や花の段々畑・下池の演出等の農景観の創出、周辺公園や集合住宅用地との連続性を実現するシンプルな円形広場の空間、そしてこの両者の空間を繋ぐ展望広場の存在感、各空間単位の性質はそれぞれ異なるものの、各施設がきっちりとデザインされたうえに統一感があり、全体としてまとまりのある空間の連続体を形成することに成功している。

様々なつながりを実現する空間デザイン

- 緑・都市施設をつなぐ
 - ・稲城市の広域的な都市構造である「緑の環」の連続性を強化する設計を行った。
 - ・周辺には公園や駅が近く、結節点として連続性を実現する設計を行った。
- ニュータウン地区内外をつなぐ
 - ・谷戸地形を本公園内に引込み、地区内外に対して開くことで谷戸とニュータウンを結びつける設計を行った。
- 集合住宅用地をつなぐ
 - ・公園に主開口部を持つことになる集合住宅用地に対して植栽配置や広場配置を考慮し、集合住宅との連続性を創出する設計を行った。



周囲とのつながり

地域の歴史的・文化的景観と一体化する空間デザイン

- ・公園と一体化した谷戸（上谷戸地区）は、稲城市の原風景を残す重要な景観資源なので、花の段々畑を整備し、農景観のレンゲの風景を再現し、谷戸の景観との一体化を図り、地域景観を保全する設計を行った。
- ・また、郷土樹種による緑化と谷戸の環境になじむ素材を用いた空間整備を行うことで、多摩地域の原風景の再現を行い、地域の歴史・文化的景観との一体化を実現する設計を行った。



花の段々畑



下池



上谷戸地区と一体的な空間

防災に資する空間デザイン

- ・本公園を含む多摩ニュータウンB-6地区の防災計画において、本公園にはテント設営スペース、生活用水、配水場、備蓄倉庫、非常用トイレ、照明施設の設置が位置づけられていた。この位置づけを満たすために防災施設の設計を行ったが、平常時に違和感なく公園の景観に溶け込むように工夫した。



テニスコートに整備した地下水槽



地下水槽



防災施設の配置



第25回全国都市緑化ぐんまフェア高崎まちなか 会場修景・演出計画

株式会社ライフ計画事務所 石田裕樹・村岡政子・金子隆行・松平和也

□ 作品の概要

「第25回全国都市緑化ぐんまフェア高崎まちなか会場修景・演出計画」は、過去のフェアでは例のない、生活・商業空間そのものの“まちなか”を市民や民間企業・各種団体の協力を得て全国都市緑化フェアの主会場のひとつとするための展開計画です。従来、都市緑化フェアの主会場は都市公園の中に限られていましたが、JR 高崎駅西口から商店街が並ぶ市街地を通過して高崎城址公園周辺までの“まちなか”を会場とし、多くの市民や企業・団体の方々の協働により実際の都市で先進的な緑化実験を行うことができました。

□ 計画の進め方

計画策定に当たっては、実際に都市緑化を実践してきた造園施工技術者の集まりである都市緑化研究グループ（若手の造園施工技術者が中心）と高崎市緑化フェア推進室メンバーからなるグループを組織し、ワークショップ方式による検討会を開催し計画をまとめました。4回の検討会を通して、まちなかでの新しいフェアのあり方や地元ならではの具体的な飾花の手法などについて活発な検討を進めることができ、自由な発想の楽しい計画が立案されました。

また、店主や居住者が自ら参加して店舗の入口や



音楽の街 高崎をイメージした音符と五線譜のオブジェ（駅前広場）。わかりづらいかと心配したが、かなりの方が♪とわかってくださった様子、「高崎＝音楽」という市民の方々のイメージの勝利

作品概要

作品名：第25回全国都市緑化ぐんまフェア高崎まちなか会場
修景・演出計画
対象地：群馬県高崎市中心市街地
発注：全国都市緑化ぐんまフェア高崎市実行委員会
事業目的：ぐんまフェアの総合会場の一つとして高崎駅周辺の中心市街地を、地元商店街や企業、市民の協力のもと、まちなかの様々な空間について修景・演出計画を策定することを目的として発注された。
協働者等：株式会社グリーンダイナミクス
事業期間：平成18年10月～平成19年3月（フェア会期：H20.3.29～H20.6.8）
事業規模：面積約50 ha

作品評

本作品は、全国都市緑化ぐんまフェアの高崎会場において、高崎駅周辺の中心市街地を「まちなかフェア」会場として、花と緑で修景することを目的に、ワークショップ方式による演出計画を行ったもので、緑化フェアにおける新たな試みとして注目された。

審査において、ワークショップの企画運営及び全体計画から個別の演出計画、花壇素材の調達計画など、多方面を調整して進行していくプロデュース力と実行力が高く評価された。

特に、各商店・事業所の修景計画において、高崎の地域性や各商店ならではのテーマ性をもった演出が実現し、計画の目的が充分達成された点は、受賞者のきめ細やかなプレゼンテーションによる関係者の理解なしには得られなかった結果だと推測される。

以上のように高い評価を得た作品であるが、応募資料から、様々なコラボレーションの中で、受賞者の果たした具体的な役割が充分には読み取れなかった部分があり、この点が惜しまれた。

まちなか会場に対する来場者のアンケート結果は好評で、中心市街地活性化の方法論と活動の良き例となっており、この活動が一過性のもので終わらないよう今後の地元の活動に期待する。

壁面等を修景緑化、飾花する事業として「たかさき花百彩」を計画しました。

□ 作品の特色

緑化フェアではワークショップで計画したものの大部分が実現し、来場者に好評を博しました。広場や建物の外構、屋上や壁面、さらには歩道上や街路灯など、まちなかの要所要所を最新の造園技術を駆使して花と

緑で修景・演出し、中心市街地を華やかで楽しい空間へと一変させることができました。また、地元商店や市民に都市緑化を実践する場と機会を提供し、街ぐるみで緑化することの素晴らしさや楽しさを実感していただけたと思います。今後、全国都市緑化フェアのみならず各地の中心市街地活性化の手法の一つとして、これらの試みが参考となることを願っています。



「たかさき花百彩」に参加した喫茶店一般出展の補助は対象経費の90%、最高20万円までとしたが、レベルの高い出展が数多くあった



ワークショップで提案された和風旅館の修景はお休み処にまで発展。地元を知り尽くした施工業者が主体となることで、多くの市民の協力が得られた



都市緑化の実験として修景。まちなかの緑化、普通ではできない規模の緑化も実験的に実施



熊谷グリーンフォレストビレッジ

西武造園株式会社 大嶋 聡・加庭理絵・宮城あずみ・佐橋輝恵

計画地は埼玉県熊谷市にあり、夏季は内陸ゆえ蒸し暑く、また冬季は荒川沿いに吹く強い北風が冷たく、典型的な北関東地方の気候の地である。計画前は、ゴルフ練習場跡地であったため既存樹は皆無であり、まず我々は計画地をどのように緑に染めるかというところから計画を始めた。「骨格の緑」で外周や敷地コーナーをおさえ、核となる大径木で点在する緑で微気象をコントロールし、土地に歴史性をも与え、同時に住まわれる方々への心の拠り所を形成することで、住環境にふさわしい環境づくりを目指した。またその中で、住まわれる方々に対して快適性や安らぎを与える空間構成を特に「修景の緑」として位置づけ、メンタルに訴える計画とした。全体の持続性あるいはエイジング性という観点においては、自然素材を多用し、ローメンテナンスで維持できる緑地計画、自然発生的な計画、

修景グレードにメリハリを持たせた計画を実践した。さらに技術的には、荒川の氾濫原の厚い砂礫層に対する植栽基盤構造設計には特別の配慮が必要となった。施設概要としては、外周緑地はシラカシとソメイヨシノの交互植栽により修景と防風機能を持たせた。桜ガーデンのロータリーには強い生命力を感じさせてくれるヤマモモの巨木をシンボルツリーとした。桜ガーデン2階屋上庭園ではレストランやパーティールームに面しているため、数品種のバラや冬咲きの常緑クレマチス等を用いて四季を通して香りや色で人間の五感に働きかける植栽計画を行った。また、3F屋上庭園は認知症ケアのためのガーデンでは主に馴染み深い植栽を取り入れ、郷愁を誘う景観を創出している。7階の展望室からは、遠景の眺望と屋上の植栽が楽しめる。メインとなるセンターパークでは、ドッグランやリス



グリーンフォレストビレッジのセンターパーク

作品概要

作品名：グリーンフォレストビレッジ
 所在地：埼玉県熊谷市広瀬800-2
 発注：大栄不動産株式会社
 設計：株式会社内藤総合計画（建築設備設計）
 西武造園株式会社（造園外構設計）
 設計協力：木内ランドスケープ設計室（実施設計補助）、鈴木きみ（楓コート草花設計）
 監修：春山 満（株式会社ハンディーネットワークインターナショナル）
 監理：株式会社内藤総合計画
 施工：戸田・島村・中里共同企業体
 設計期間：桜ガーデン・楓コート造園外構 平成17年11月～平成19年11月
 施工期間：桜ガーデン造園外構 平成18年2月20日～平成19年4月14日
 楓コート造園外構 平成19年6月1日～平成19年10月31日
 規模：桜ガーデン/7階建RC造，建築面積1,928.4㎡，延床面積8,343.2㎡
 楓コート/7階建RC造，建築面積5,465.5㎡，延床面積15,424.6㎡
 工区の約2.5ha，屋上5カ所（1,873.8㎡），パティオ1カ所（277.9㎡），および仮設モデルルーム外構（114.8㎡）
 主要施設：桜ガーデン（アシステッドナーシング，スペシャルケアセンター），楓コート（シェルダードハウス），グリーンフォレストパーク，パティオ

作品評

本作品は，シニアの暮らしが完結する「街」として開設された新しい形の老人ホームのランドスケープ設計プロジェクトである。変化に富み，飽きの来ない空間は，居住者に配慮され，綿密で質の高い空間づくりが施されており，非常に優れた空間であると，委員会でも高い評価を得た。

しかしながら一方で，個々の空間が各テーマにより完結してしまっているため，全体を通した統一感に欠けるとの印象もあった。また，残念なことに，応募資料から，周辺の荒川流域の豊かな緑との調和や，本プロジェクトにおいて気候・風土をどのように活かしたのか，などの点が読み取ることができず，より高い評価に繋がったであろう，これらの記述が資料に明確に表現されていなかった点が惜しまれた。

以上の点より，奨励賞の受賞にとどまったが，今後，時とともに居住者の暮らしが景観と一体となり，シニアの暮らしが完結する「街」が形成されていくことに期待したい。

ミカルな遊歩道，ガーデニングを楽しむ菜園，芝生広場，森林浴やパターゴルフ等が楽しめる。特に桜ガーデンのパティオでは，冬暖かく夏涼しい囲まれた空間の中で天空と一体となることができる。グリーンフォレストビレッジは，老いを楽しむ美しいシニアの暮らしが始まる，今までにない新しい街を創出するものである。



にぎわいと活力を印象づけるエントランス植栽



花と香りにつつまれた2階屋上空間



懐かしく馴染み深い植栽につつまれた3階屋上空間



天空と一体になれるパティオ



地域連携による資源有効活用方針検討 ～エコあすか～

株式会社空間創研 宇戸睦雄・泉 崇・片木孝子

□ エコあすか

国営飛鳥歴史公園の植物発生材（芝草・剪定枝等）の有効活用をめざし、定性的・定量的把握を行った結果、植物資源生産の場であり、飛鳥の歴史的景観の一部となっている公園内では植物発生材の全量を消費することができず、需要と供給のバランスがとれないことが明らかとなった。そのため、公園を含めた明日香村全体を視野にいれ、村内全体で植物発生材の有効活用を図っていくことを目的とし、様々な関係者の連携により「エコあすか協議会」を設置して、研究活動に取り組んでいる。

□ 国営飛鳥歴史公園の特性

公園の区域が遺跡などの歴史的資産の中でも特に重要なものについて、それ自体の保存やその周辺の環境整備を目的として定められ、奥行きのない限定された区域設定となっている。公園が保存している歴史的風土は、樹林などの自然的環境が主体となっており、公園区域すべてが埋蔵文化財包蔵地であり、公園の外観そのものが歴史的景観の一部を構成していることから、安易に改変することが許されない。



エコあすか啓発パンフレット（明日香村全戸配布＋公園来園者配布）

作品概要

作品名：地域連携による資源有効活用方針検討～エコあすか～
 所在地：奈良県高市郡明日香村
 発注：財団法人公園緑地管理財団
 事業目的：公園及び地域から発生する植物発生材等の有効活用による循環型社会への対応方策を検討する。
 事業体制(関係主体)：国営飛鳥歴史公園事務所、(財)公園緑地管理財団飛鳥管理センター、明日香村地域づくり課、明日香村地域振興公社、明日香村観光開発公社、明日香村森林組合、奈良県農業協同組合

作品評

本業務は、公園内で発生する植物資源を高性能な堆肥として熟成し、これを地域の農業に活かし、地域全体の循環システムの確立をめざすという先駆的な事業の立ち上げと運営に係る調査計画業務である。
 国営飛鳥歴史公園の公園設置者、公園管理者、明日香村、農協等からなる「エコあすか協議会」を立ち上げ、堆肥の試験生産を経て村内施設での実用生産、それを使った野菜の有機栽培と販売等を行ってきた。また、地域の間伐材を使った公園木製工作物製造や農産物販売所建設等にも積極的に取り組んでいる。地域の資源循環の将来像を描き、活動の発展性と継続性に配慮しながら、様々な取り組みをリードし成果をあげてきたことが高く評価された。
 今後、植物資源の発生元や間伐材需要先としての公園の役割だけでなく、環境・景観保全につながる情報発信等の役割や公園と地域との関係の持ち方等が重要となると思われ、公園を中心とした積極的な展開に期待したい。

植物発生材に関する現状と問題点

国営飛鳥歴史公園では、植物管理によって間伐材、剪定枝、芝草が発生し、チップや堆肥として利用している量がわずかである一方、牛糞堆肥を購入するなど、改善の余地が見られる。

明日香村においては、林業活動によって発生する間伐材などは、現在有効に活用されていない。また、古都保存法に基づく買入地で発生している草も廃棄されている。一方、明日香村では有機農業を推進する機運が高く、村内で発生する牛糞を堆肥化して活用するほ

か、不足する堆肥を村外から購入している。

地域連携による資源循環の方向性

公園、村それぞれに過不足が発生していることから、相互に補うシステムを構築し、資源循環システムに必要な加工、破碎、堆肥化、貯蔵といった施設を公園と村の役割分担又は共同により設置運営することを目標に設定する。

さらに発生材の利用の各段階を一貫して管理し、需要の変化や季節変動などに対応できる「カスケード」利用を行う。



公園の刈草と→→→→→→→→→→→



地域で廃棄処分されている「米ぬか」を→



混合して堆肥を試験製造しました→→→→→



ナノハナの試験栽培や→→→→→→→→→→→



農家の協力により野菜の試験栽培を行い→



それらの情報発信活動を行っています





佐渡 トキ野生復帰ステーション設計業務

株式会社ブレック研究所 長谷川均・黛 卓郎・和田克臣・福岡 薫

本業務は、トキの野生復帰のための訓練施設の敷地選定、必要機能・施設の検討、設計・監理までの一連の業務であり、トキに代表される生物の生態を考慮して、建築、造園、土木等の様々な技術を総合的に展開して進めました。

施設計画地は、トキの生息環境に近い環境確保を目指し、トキの飼育繁殖を行っている「佐渡トキ保護センター」の南東約2.5kmの耕作地と丘陵地の境界部分約22.5haの既存の湿地環境があるなど多様な自然環境を有する落葉広葉樹に覆われた緩傾斜地を選定しました。

施設については、トキの野生化に向けての訓練とい

う誰も経験したことのない用途に使用される施設であり、様々な要素への対応が求められ、多様な利用形態に対応できる柔軟性の高い施設としていくよう心がけました。

さらに、トキの飼育繁殖などに詳しい専門家で組織された検討会での助言を基に、必要な機能・施設や施設の形態などについて検討し、設計を進めていきました。

その結果、野生順化訓練のために必要な施設として、

- ・採餌、飛翔、集団化訓練のための大規模な空間を確保した順化ケージ
- ・自然繁殖を行うための繁殖ケージ



順化ケージ内部

作品概要

作品名：佐渡 トキ野生復帰ステーション設計業務
 所在地：新潟県佐渡市新穂正明寺
 発注：新潟県
 設計：株式会社ブレック研究所
 設計協力：なし
 監理：株式会社ブレック研究所
 施工：大豊建設株式会社
 設計期間：平成15年9月～平成19年3月
 施工期間：平成17年3月～平成19年3月
 規模：敷地面積 22.5 ha
 主要施設：順化ケージ、繁殖ケージ、収容ケージ、管理棟、給餌棟、観察棟 等

作品評

本作品は極めて評価の難しい作品であった。選考委員会において、本作品が、われわれが日常的に取り扱う都市公園緑地や建築外構の設計とは異なり、トキの野生復帰を目的とした極めて特殊な施設を対象にしている点が確認され、そのうえで、本作品は、ランドスケープ、自然生態分野における高度なエンジニアリング能力を評価のポイントとして議論することとなった。

なお、本作品の応募資料を熟読する中で、トキの飼育、繁殖、訓練を行う敷地選定に関する検討やその過程が読み取れなかったことは非常に残念だった。また、主要施設である「馴化ケージ」を周囲の環境に馴染ませるデザインとしたことは理解できたが、トキという象徴的な対象に対し、目立たせないデザインを採用したことが最適解なのかという点についても議論となり、この疑問に対する解答が資料から読み取れなかった点についても、残念だった。

しかしながら、未知なる部分が多いトキを対象に、参考とする事例が無い状況の中で、専門家と協議を重ねながらトキの訓練プログラムを模索し、それに対応したエンジニアリングを駆使した技術力の高さは評価に値すると判断された。

- ・ 傷病トキの収容を行う収容ケージ
- ・ トキに影響なく観察できる観察棟
- ・ 全体の管理拠点である管理棟等の施設を導入しました。

本施設で訓練を受けたトキ10羽が、2008年9月25日に試験的に放鳥され、佐渡と本州を行き来するなど予想を超え様々な生態も明らかになってきています。さらに、現在も2009年9月末に予定されている2回目の放鳥に向けて、18羽のトキが訓練を受けています。



平面図



馴化ケージ外観



順化ケージ上流側湿地ビオトープ



繁殖ケージ



対象地全景



試験放鳥直後のトキ